

市民と議会との対話集会報告書

テ ー マ	みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～			
開催日時	令和7年 10 月 28 日		午後2時 00 分 ～ 3時 30 分	
開催場所	本庁舎			
出席議員	挨拶	仙石 三喜男		
	(全体)司会・進行	林 美行	PC 操作	獅子野 真人
	司会・進行	A グループ:柴田 雅也 B グループ:林 美行		
	対話議員	A グループ:吉田 企貴		
		B グループ:城處 裕二		
	記録者	A グループ:加藤 智章 B グループ:黒川 昭治		
参加人数	合 計 12 人(男性 7人 女性 5人)			
市民からの おもな意見	●公共交通について ・駅や病院へのアクセスが困難で、「高齢になると生活が成り立たない」との声が多い。 ・高齢化と地理的要因により、徒歩での移動が困難なため、地域交通の再構築(デマンドバス、コミュニティーバス)の充実を検討してほしい。 ●幼稚園・こども園の統合再編について ・歩いて通える地元の園を残してほしい。 ●地域コミュニティーについて ・養正校区には地域力がある。各コミュニティーをつなぐ横串役が必要 ・公民館の老朽化が進み、自治会活動が衰退している。住民のつながりが薄れ、空き家も増加している。 ・高齢者が子どもを支えるコミュニティーづくりが「住みよいまち」につながる。 ・「地域コミュニティー再生の拠点づくり」や「空き家の利活用支援」が必要 ・隣人関係が希薄な町内でのまちづくりに向け、行政主導の地域交流支援を望む。 ●中京学院大学の本市への移転について ・経済効果だけではなく、地域との共生を重視すべきである。 ・外国人学生と住民との交流の在り方、文化の違いについて相互理解のため、大学と地域住民の交流促進や外国人への支援体制の整備が必要である。 ●その他 ・修道院、永保寺、モザイクタイルミュージアム、TYK スポーツパーク多治見など地域資源を活用し、地域のにぎわいを創出してほしい。 ・荒れた公園の管理体制を見直してほしい。 ・市議会議員や指導的立場の人への人権・ハラスメント教育を徹底してほしい。			

市民と議会との対話集会報告書

テ ー マ	みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～			
開催日時	令和7年 10 月 28 日		午後7時 00 分 ～ 8時 30 分	
開催場所	笠原交流センター			
出席議員	挨拶	仙石 三喜男		
	(全体)司会・進行	林 美行	PC 操作	獅子野 真人
	司会・進行	A グループ:加藤 智章 B グループ:嶋内 九一		
	対話議員	A グループ:亀井 芳樹		
		B グループ:嶋内 九一		
	記録者	A グループ:林 美行 B グループ:片山 竜美		
参加人数	合 計 10 人(男性 8人 女性 2人)			
市民からの おもな意見	●自治会、地域コミュニティについて ・自治会もそうだが、何事にも関心がない人が多いように感じる。イベントを開催しても若者の参加が少ない。関心のある人を集めて開催し、盛り上げていき、関心を持ってもらえるようにするのはどうか。 ●笠原小中学校について ・転入理由において、近くに学校があることはポイントである。子育てがしやすい環境に人が集まってくる。 ・学校は、子どもの居場所になれるよう安全・安心で楽しく授業を受けられるとよい。また、親と地域の理解が必要である。 ●空き家について ・空き家が増加しており、草木が茂って道路に出ていたり、隣の家には枝が伸びたりしている。ボランティアで草刈りをしてくださいと言われるが、私有地の草を勝手に刈るわけにはいかない。 ●外国人について ・外国人を雇用している事業主は、ごみ出しのマナーなどについて、しっかり教育をしてほしい。また、小中学生が人権教育で外国人との共生について学んでいるが、大人も同様に考えるべきである。 ●コンパクトシティについて ・人口集中地域をつくったほうが、財政的にもコストパフォーマンスがよい。人を集中させるコンパクトシティの施策をもっとしっかり進めてほしい。コンパクトシティが実現すれば、車は不要になり、公共交通機関も充実するのではないか。			

市民と議会との対話集会報告書

テ ー マ	みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～			
開催日時	令和7年 10 月 29日		午後2時 00 分 ～ 3時 30 分	
開催場所	感謝と挑戦のTYK体育館			
出席議員	挨拶	仙石 三喜男		
	(全体)司会・進行	獅子野 真人	PC 操作	獅子野 真人
	司会・進行	A グループ:柴田 雅也 B グループ:片山 竜美		
	対話議員	A グループ:葉狩 拓也		
		B グループ:三輪 寿子		
	記録者	A グループ:加藤 智章 B グループ:黒川 昭治		
参加人数	合 計 9人(男性 8人 女性 1人)			
市民からの おもな意見	●市之倉地域での要望・課題 ・人口減少を踏まえた地域の将来像と行政支援の方向性を明確に示してほしい。 ・行事運営などを支援するために、行政・地域団体との協働体制を強化してほしい。 ・立地適正化計画のコンパクトシティ構想から市之倉地域が除外されており、今後のまちづくりから取り残されるのではないかと不安がある。 ●自治会、地域コミュニティ、ボランティア活動について ・町内の人の顔が分からず、まちなかで会っても誰かわからない。災害時に誰を頼ってよいかわからず不安である。 ・くらし人権課が作成した町内会加入促進のチラシを回覧したが、町内会未加入世帯には届かない。町内会の役割や利点を説明する若年層にも分かりやすい資料を行政で作成してほしい。 ・町内会の役員やPTAの担い手不足は共通の課題である。町内会長や地域役員のための実務マニュアルの整備や負担軽減を求める。 ・ボランティアの参加者はいるが、組織化が難しい。ボランティア組織を維持するためには、リーダーの育成が急務である。 ●その他 ・インターネットの環境は整っていても活用できず、意見を言えない人の声を拾う仕組みが必要である。 ・市民からの相談について、信頼性の高い窓口が求められる。また、内容別の問い合わせ先一覧表があるとよい。 ・高齢者だけでなく、全世代に支援を行うことで、まちの活性化につながる。例えば、バスチケット 65 を全世代対象とすることでバスの利用者が増加するのではないか。			

市民と議会との対話集会報告書

テ ー マ	みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～			
開催日時	令和7年 10 月 29日		午後2時 00 分 ～ 3時 30 分	
開催場所	南姫公民館			
出席議員	挨拶	奥村 孝宏		
	(全体)司会・進行	林 美行	PC 操作	事務局職員
	司会・進行	A グループ:亀井 芳樹 B グループ:玉置 真一		
	対話議員	A グループ:城處 裕二		
		B グループ:寺島 芳枝		
	記録者	A グループ:若尾 敏之 B グループ:井上 あけみ		
参加人数	合 計 10 人(男性 4 人 女性 6人)			
市民からの おもな意見	●土地利用について ・姫地域は、市街化調整区域であり、家が建てられないなどの理由から人口減少と高齢化が進み、農業の担い手がいない。 ・市街化調整区域を変更するために、できない理由を挙げるのではなく、どうしたら変更できるのか、研究する必要があるのではないか。 ・姫地域の中核は姫駅だと思う。姫駅に人口が集中する仕掛けが必要だと思う。 ●自治会加入について ・町内会加入のメリットが明確でない。また、災害等の避難所では、町内会未加入者の面倒は見られないという意識がある。 ・町内会役員の引継ぎにおいて、避難行動要支援者の個人情報を守られるのか疑問である。 ●公共交通について ・バスチケット 65 は姫地域では使用できない。姫地域は、買い物等で可児市に行くのが近くて便利なため、地域あいのりタクシーを可児市まで使えるようにしてほしい。 ●その他 ・大人から子どもまで年齢を超えて楽しく触れ合う場所(コミュニケーションがとれる場)が必要である。 ・中央リニア新幹線の工事について、地元説明会が1回あったのみで、大きな振動に不安を感じている。危険物が出た場合の対応を望む。			

市民と議会との対話集会報告書

テ ー マ	みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～			
開催日時	令和7年 11月9日		午後2時 00 分 ～ 3時 30 分	
開催場所	駅北庁舎			
出席議員	挨拶	仙石 三喜男		
	(全体)司会・進行	獅子野 真人	PC 操作	獅子野 真人
	司会・進行	A グループ:若尾 敏之 B グループ:黒川 昭治		
	対話議員	A グループ:三輪 寿子		
		B グループ:吉田 企貴		
	記録者	A グループ:片山 竜美 B グループ:嶋内 九一		
参加人数	合 計 10 人(男性 7 人 女性 3人)			
市民からの おもな意見	●自治会・地域活動について ・自治組織は役員の成り手がいない。また、市民に自治会がないと困るという認識がない。 ・人口が増えるだけでは駄目である。住む人が地域とどのように関わっていくのかが大事である。地域のつながりがなくなると、災害時の安否確認ができなくなる。 ・公民館活動など、人が集まることでコミュニティが形成されるのではないかな。 ・高齢者が積極的に外に出ることで健康寿命が延び、まちも活性化するのではないかな。 ●公共交通について ・本市はマイカー依存が強い。高齢者の移動手段を考えていかなくてはいけない。 ・バスの本数が少ないため、若者がまちに出ないのではないかな。まちづくりのためには、若者が積極的にまちに出かけられるようにするとよいのではないかな。 ●外国人について ・外国人のごみの出し方、大声での会話、大音量でテレビを見るなどの生活マナーの改善を望む。 ・外国人を雇用する事業主やアパートのオーナーにごみの出し方などの指導を依頼してはどうか。 ●まちづくりについて ・産学官が連携したり、専門家の意見を聴いたりして知恵を出し合えば、よりよいまちづくりが見えてくるのではないかな。 ●少子化対策について ・子どもを産み、育てていくことができるよう地元でしっかり稼いで子育てできる環境が必要			

市民と議会との対話集会報告書

テ ー マ	みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～			
開催日時	令和7年 11月9日		午後2時 00 分 ～ 3時 30 分	
開催場所	根本交流センター			
出席議員	挨拶	奥村 孝宏		
	(全体)司会・進行	林 美行	PC 操作	事務局職員
	司会・進行	A グループ:亀井 芳樹 B グループ:葉狩 拓也		
	対話議員	A グループ:成田 康弘		
		B グループ:寺島 芳枝		
	記録者	A グループ:石田 浩司 B グループ:井上 あけみ		
参加人数	合 計 12 人(男性 8 人 女性 4人)			
市民からの おもな意見	●自治組織・地域コミュニティについて ・若い世帯の町内会未加入・脱退が増えており、担い手不足で町内会活動の運営が困難である。 ・町内会の解散により防犯灯の電気料金が払えないため、電気料金のみを各戸から徴収する仕組みを作ってはどうか。 ・地域コミュニティが衰退し、祭りや清掃などの行事も縮小・中止傾向にある。 ・若年層、外国人世帯への町内会加入促進、行政による町内会運営支援(役割軽減、代行制度など)の拡充、空き家の利活用、若者世帯への空き家の活用支援が必要である。 ●教育・子育てについて ・不登校児童生徒の増加などで教育現場が疲弊している。小学校から中学校へ進学する際に、進学する中学校が分かれることも地域離れの要因になっているのではないか。 ・「学校に来ることが正解」ではない柔軟な学び方を認める。民間・地域と連携した学びの多様化や不登校支援施設(例:さわらび)への支援強化、教育を地域の魅力づくりに結びつける(例:特色ある学びを求めている移住誘致) ●都市計画・土地利用について ・根本地域の特性として、市街化調整区域があり、農地振興以外の利用が認められていない。計画だけで止まっている「副都心構想」を具体化させ、長期的(20 年スパン)な都市整備を今すぐ動かす必要がある。 ●その他 ・教育・子育て、都市開発、地域活動は、別問題ではなく、人口維持・地域活性化の一本の流れとして捉えるべきである。計画倒れを防ぎ、実効性のある中長期ビジョンが求められる。			

市民と議会との対話集会報告書

テ ー マ	みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～			
開催日時	令和7年 11月13日		午後2時 00 分 ～ 午後3時 30 分	
開催場所	総合福祉センター			
出席議員	挨 拶	林 美行		
	(全体)司会・進行	林 美行	PC 操作	獅子野 真人
	司会・進行	井上 あけみ		
	対話議員	三輪 寿子、林 美行		
	記録者	片山 竜美		
参加人数	合 計 4人(男性 3人 女性 1人)			
市民からの おもな意見	【困っていること】 ●公共交通について ・コミュニティバスに人が乗っていないので、いづれなくなるのではないかと心配である。 ・よぶくるバスの広報や周知がされていない。どんな目的で利用されているのか分からない。早朝や土曜日・日曜日、夜間に利用したくても運行していない。 ●自治会について ・役員ができない、やりたくない、必要性を感じないなどの理由で自治会をやめていく人が多い。 ●子育てについて ・希望する幼稚園・保育園になかなか入れない。 ●空き家、空き地について ・空き家や空き地が草むらになっている。 【要望・提案】 ・幼稚園と保育園が連携した施設を造ってほしい。 ・0歳児から5歳児まで継続して預けられる園を増やしてほしい。 ・市の広報を「きずなネット」にまとめて掲載してはどうか。 ・自治会の仕事を業務委託してはどうか。 ・アパートのオーナーに何らかの役割を与えて、自治会活動をアパートの住人とともにできないか。			

市民と議会との対話集会報告書

テ ー マ	みんなで取り組むまちづくり～みんなの住むまちの明日を考えよう～			
開催日時	令和7年 11 月13日		午後7時 00 分 ～ 8時 30 分	
開催場所	旭ヶ丘公民館			
出席議員	挨拶	仙石 三喜男		
	(全体)司会・進行	林 美行	PC 操作	獅子野 真人
	司会・進行	A グループ:石田 浩司 B グループ:黒川 昭治		
		A グループ:玉置 真一 B グループ:亀井 芳樹		
	記録者	A グループ:井上 あけみ B グループ:若尾 敏之		
参加人数	合 計 7人(男性 7人 女性 0人)			
市民からの おもな意見	●自治会、地域力について ・希望ヶ丘では、町内会役員のみが活動するのではなく、個別テーマごとの運営委員会が作られ、活動経費も支給し、うまく回っている。SNS を活用し、会議を簡素化している。 ・外国人は自治会に未加入であり、加入促進には市の支援が必要である。また、区の運営についても財政的な支援が必要である。 ・地域力は校区を範囲としており、地域としてまとめることが無理な場合がある。範囲を狭くするなど見直しが必要ではないか。 ●公共交通について ・自動車免許証の返納者には、バスチケット 65 を年間 120 枚、平日は2枚使用可としてほしい。 ・路線バスを利用しようとしたが、1時間待ちで便数の少なさを感じた。 ●環境について ・地域の住宅は築 40 年～50 年であり、空き家も増えている。樹木の管理をするよう、市が動いてほしい。また、市有地で倒れそうな木が多くある。きちんと管理、伐採をしてほしい。 ・環境整備のため、市内一斉清掃を年に2回実施してほしい。 ●その他 ・高齢者対策について、集中して取り組んでほしい。 ・地区事務所を郵便局に委託するのではなく、地区事務所をもっと活用できるよう 1 年交代の町内会役員をフォローできる職員(地域コーディネーターの役割を果たせる)を配置してほしい。			